



緑と岩で覆われたヨセミテ国立公園、奥に見えるのはハーフドーム

1976年に雑誌ポパイが創刊されるとアメリカ西海岸のタイムリーな流行が発信され、そしてアメリカは建国200年を向かえた。80年代に入ると、ルート66やロスからニューヨークを目指す記事を目にするようになる。雑誌から作り出された「東を目指す」というルートイメージは、今も日本人の心のどこかに焼き付いている。例えばロスから、地図上の太い線で示されたイン

意外と簡単！

# アメリカを走ろう



## 放浪系カメラマンによる アメリカのお勧めドライブコース

壮大な景色のなかを、大きなクルマでゆったりと流す。  
アメリカは休日のスケールも段違い。  
UCGでおなじみの五條カメラマンが  
豊富な撮影旅行の経験から得た、オスメルートを教えてくれた。  
Text&Photo: 五條伴好

キャンピングカーが足代わりの四駆を引っ張る。大陸ならではの光景だろう。



休日のガソリンスタンドで、クラシックカーとキャンピングカーに出会う。

ターステートハイウェイを使って東向きに走る。1日目こそ真っ直ぐな道と荒涼とした風景に、やったぜ!と右手を振りかざすが、2日目には道路沿いのファーストフードの食事に飽き、3日目には退屈な道のりをトリップメーターとにらめっこするばかりになる。

そんな単純な、走るだけの旅にしないために、アメリカの旅は北から南の縦断が面白いと提案したい。例えば西海岸の北からジグザグに南下していく。風景が転がり出すように、ゆっくりと七変化していく様子はハンドルを握っていて心地よい変化でもある。

### シアトルからメキシコまで

では出発点をマリナーズの本拠地、シアトルにしよう。富士山にそっくりな“タコマ富士”を見



シエラネバダ山脈の麓にて。





グランドキャニオンにあるモニュメントバレー。



デスバレー入り口のカフェ。ちょっとした砂漠のオアシス。



デスバレーのキャンプ場。12月撮影。



アーチーズ国立公園で、テントを使ってキャンプをした時の写真。

まさに威圧感と神秘性を兼ね備えた風景。



ながら、落ち着いた街の郊外でレンタルサイクリングやシーカヤックを楽しんでから南下。ポートランドの手前からのんびりと海岸線をひた走るのもいいが、約800キロもあるので、飽きたら5号線に戻ってサンフランシスコを目指す。ゴールデンブリッジを渡って、今度はシエラネバダ山脈にあるセコイヤの森で覆われたヨセミテ、キングスキャニオン国立公園でキャンプをしながら森林浴。ここら辺りの道は狭く見通しもよくないが、遅い車は脇にそれて速い車を先に行かせてくれるマナーの良さが印象的だった。その東側には、海拔マイナス86mのデスバレーがある。名前のイメージからして、車が故障したら生きて帰れないのではないかと不安に思うが、本線から外れた枝道で車を止めて撮影し

ていると、「トラブルか?」と地元のピックアップに乗ったマッチョマンが声を掛けてくれた。アメリカの懐の深さを感じた一瞬でもあった。もちろん、デスバレーにもキャンプ場はいくつもあるが、サマーシーズンは気温が40度以上になるので、この時期は避けた方が無難だ。ハイシーズンは11月からである。

そしてラスベガスに立ち寄り散財したあとは、お決まりのグランドキャニオンだ。どんなにテレビや写真で見た事があっても、実際にその場に立ってみるまでは、この浸食された大地の威圧感や神秘性を感じる事は出来ないだろう。この風景はたとえ日程を無理してでも、朝夕の斜光で見てもらいたい。乾燥しきった空気を切り裂いて朝日が大地を照らすと、恐ろしいほど奇

怪なラインを持った風景が浮かび上がるからだ。フラグスタッフという街の南に、あまり知られてないがセドナという西部劇のロケーションに使われた赤茶けた街がある。そこを通過してフェニックスまでサボテン街道を走ろう。最後は日帰りでサンディエゴから、国境を越えてメキシコに走る体験が刺激的だ。国境沿いの街ティファナはラテン的な危険な匂いがする。昼間にお化け屋敷に迷い込んだくらいな感覚で、銃弾跡のある車を横目に見ながら、タコスランチを食べてさっさとサンディエゴに引き返すのが無難だろう。ちなみに、シアトルで借りたレンタカーはサンディエゴの営業所でもたいてい返す事が出来る(レンタカー会社による)。それなりのお金はかかるが。

もし、これほど時間を掛けられないなら、空港でキャンピングカーなりレンタカーを借りて国立公園を目指すのがいい。どこの国立公園も広大で、その土地の特徴が凝縮されているからだ。そして走りやすい道がある道が待っている。アメリカの国立公園は、大体がネイティブアメリカンの聖地。そこには磁場があり、心安らぐ空間が待っている。

日本人が持つアメリカのイメージは、どうしてもニューヨークやロスなどの都市型感覚になりがちだ。しかしアメリカの国立公園には、何千年も前から手つかずの風景があり、その中をタイムスリップした感覚で走る事が出来るなんて、そうそうありえないシチュエーション。もう一つのアメリカをぜひ体験してください。